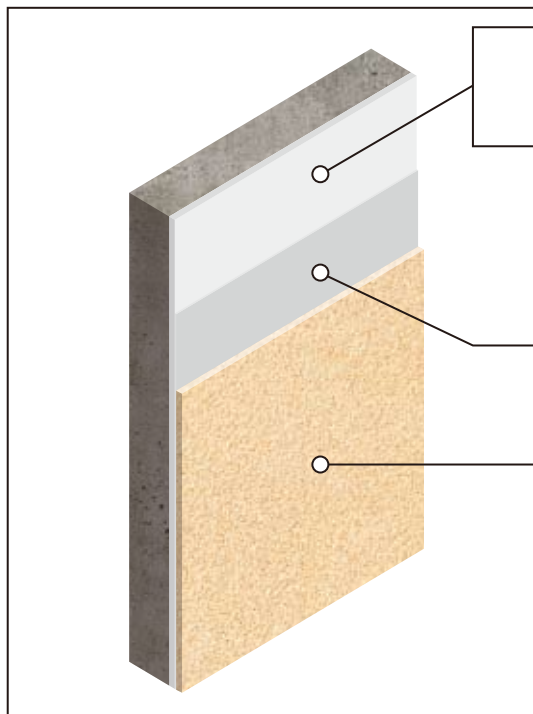


外装

セメントモルタル下地



モルタル面の仕上げ及び乾燥

金ゴテ仕上げとし十分な乾燥期間をとる。

事前準備(下地の確認・補修・清掃)

エフロレッセンス(白華現象)やレイタンス又はハガレやひび割れ(クラック)が確認された場合は除去・補修等の適切な処置を行う。

シーラー処理及び乾燥

テラコート専用P-プライマー推奨(TK-PP)

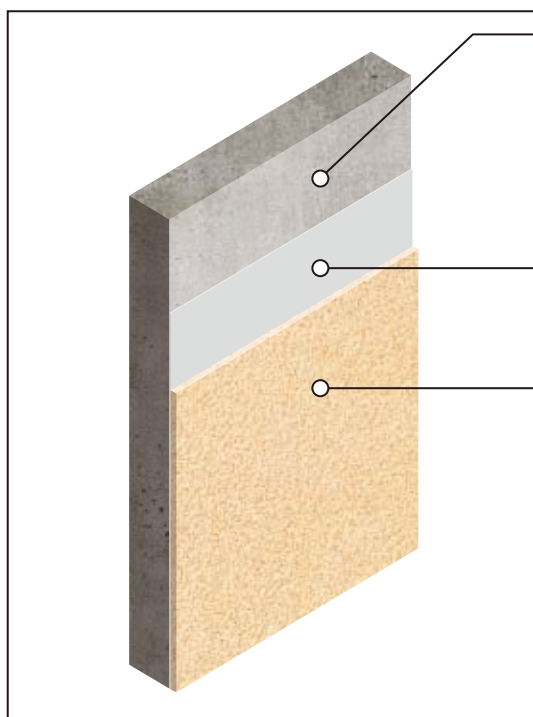
仕上げ塗り及び乾燥

下塗りの後、上塗りでパターン付けを行う。

※仕上塗りの施工方法及び注意点は別紙テラコート施工マニュアルをご参照下さい。

外装

コンクリート下地



事前準備(下地の確認・補修・清掃)

エフロレッセンス(白華現象)やレイタンス又はひび割れ(クラック)、凹凸が確認された場合は除去・補修等の適切な処置を行い平滑な下地を作る。

シーラー処理及び乾燥

テラコート専用P-プライマー推奨(TK-PP)

仕上げ塗り及び乾燥

下塗りの後、上塗りでパターン付けを行う。

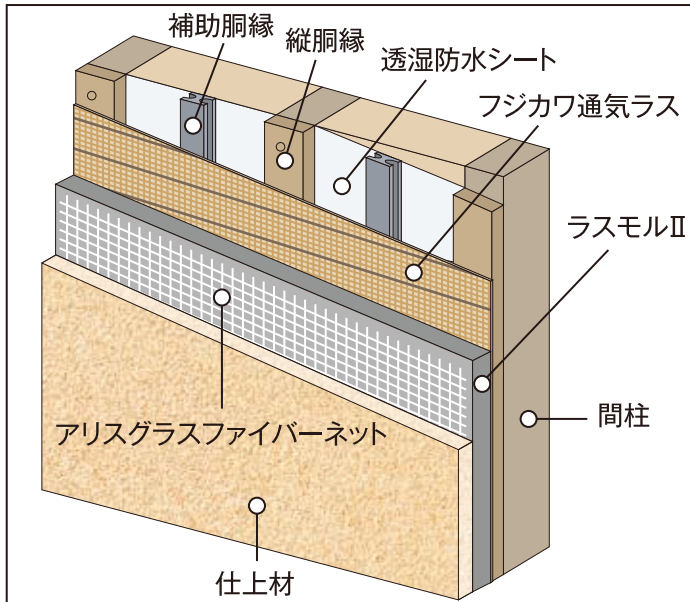
※仕上塗りの施工方法及び注意点は別紙テラコート施工マニュアルをご参照下さい。

施工手順書

外装

ノンクラック通気工法（ラスモルⅡ工法）

自由度の高い設計が可能なモルタル壁による外壁通気工法で、ラスモルⅡとアリスグラスファイバーネット、フジカワ通気ラスの組み合わせにより面材を不要としクラックを大幅に低減しました。
防火構造、準耐火構造認定。



特 徴

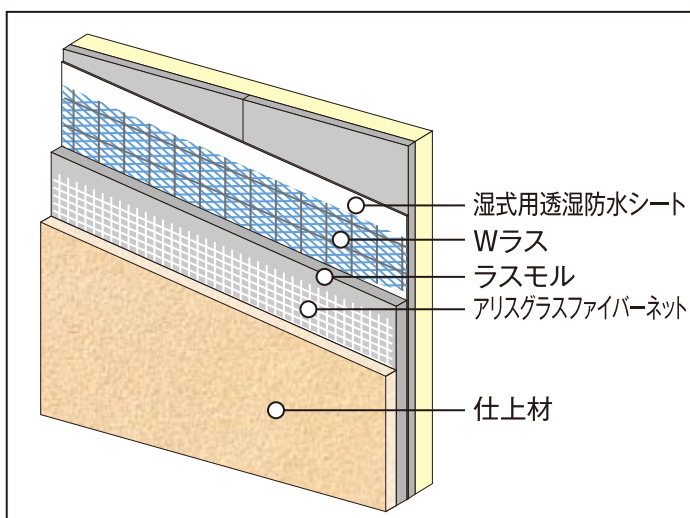
■外壁通気工法とは
外装材と断熱材の間に通気層を設ける工法。
通気層により、壁内湿気を常時放出し、腐食や錆から躯体を守り、建物の耐久性を大きく向上させます。また2重壁構造により防水性能を向上させます。

■ラスモルⅡとは
通気工法用に開発された、木造住宅用軽量既調合モルタル従来品のラスモルをさらに高強度、低吸水性、高耐久性化をはかりました。

外装

ノンクラック工法（ラスモル工法）

防水シートから仕上げまで一貫した工法として開発された木造下地用外壁塗り壁システム工法で、高耐久性の軽量既調合モルタルラスモルの表層にアリスグラスファイバーネットを伏せ込むことにより超低クラック、高耐久性、多様な仕上げが可能等の特長を実現しました。
防火構造、準耐火構造認定。



特 徴

- ①超低クラック
- ②高耐久性
- ③高浸透性
- ④高耐震性

■ラスモル・ラスモルⅡのお問合せ先
富士川建材工業株式会社
<http://www.fujikawakenzai.co.jp>
TEL 045-772-1811

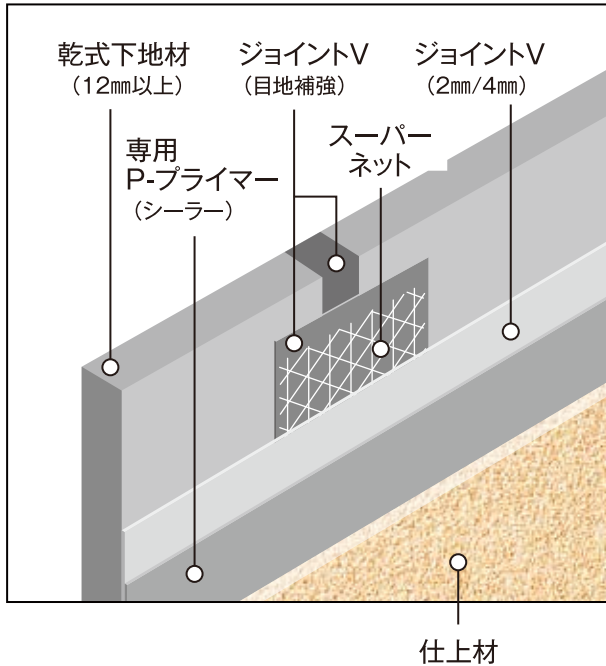
「ラスモル」「ラスモルⅡ」は富士川建材工業(株)の登録商標です。

施工手順書

外装

薄塗り大壁工法 (ジョイントV工法)

各種乾式下地材のクラック予防を目的に開発された結束力と弾性力に優れたジョイントV(特殊樹脂モルタル)とスーパーネットを使用する外壁大壁工法です。薄塗りで乾燥期間も短く、後期の短縮に役立ちます。



事前準備(下地の確認・補修・清掃)

- 下地ジョイント部に5mm程度の目透かしをとり貼付けにはビスを使用する。(ピッチ150mm以内)
※必要に応じて補助胴縁を事前に取り付ける。

目地処理及び乾燥

- ①下地ジョイント部にジョイントVを充填する。
- ②下地ジョイント部にスーパーネットを張付ける。
※開口部・入隅部はコーキング材を充填。
- ③ジョイントVを全面に塗り付ける。(2mm/4mm)

シーラー処理及び乾燥

テラコート専用P-プライマー推奨(TK-PP)

仕上げ塗り及び乾燥

下塗りの後、上塗りでパターン付けを行う。

※仕上塗りの施工方法及び注意点は別紙テラコート施工マニュアルをご参照下さい。

外装

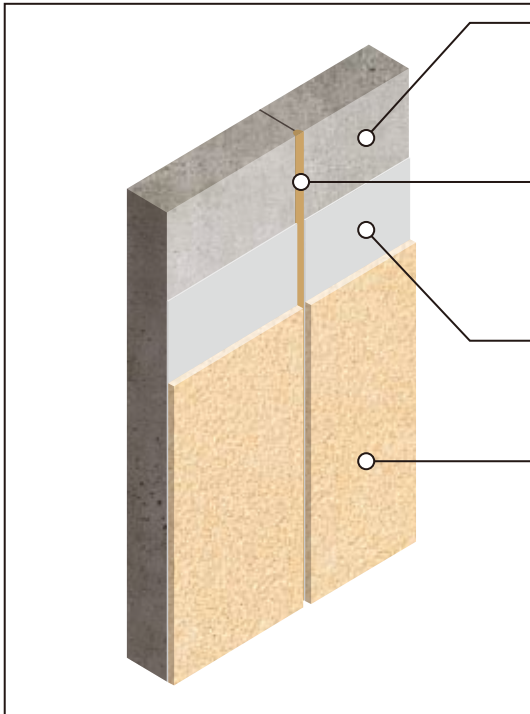
“大壁専用”の乾式下地を採用する工法

本書記載の工法の外、各メーカーから大壁用として販売されている乾式下地パネル・弾性目地処理材・メッシュ等を使用した下地での施工も可能です。詳しくは当社営業担当者までお問合せ下さい。

【ご注意】 商品によっては完全な大壁(目地なし)仕上げとならない場合がございます。

外装

ALCパネル下地



事前準備(下地の確認・補修・清掃)

パネルの破損・汚れが確認された場合は、下地メーカー指定の補修材等で適切な処置を行う。

目地処理及び乾燥

目地部は下地メーカー指定のコーキング材を充填し、仕上材は塗布しない。

シーラー処理及び乾燥

テラコート専用P-プライマー推奨(TK-PP)

仕上げ塗り及び乾燥

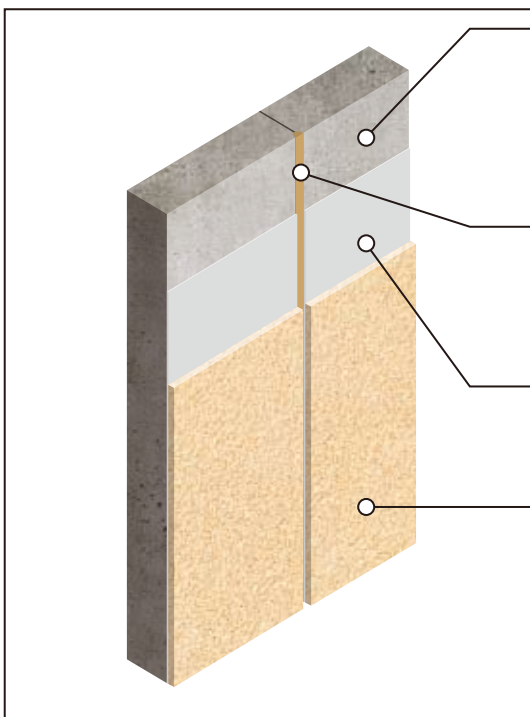
下塗りの後、上塗りでパターン付けを行う。

※目地部には塗布しないで下さい。

※仕上塗りの施工方法及び注意点は別紙テラコート施工マニュアルをご参照下さい。

外装

窯業系サイディング下地



事前準備(下地の確認・補修・清掃)

ひび割れ(クラック)が確認された場合は適切な補修を行い、又ホコリ・油分等の付着がある場合は除去する。

目地処理及び乾燥

目地部は下地メーカー指定のコーキング材を充填し、仕上材は塗布しない。

シーラー処理及び乾燥

テラコート専用P-プライマー推奨(TK-PP)

仕上げ塗り及び乾燥

下塗りの後、上塗りでパターン付けを行う。

※目地部には塗布しないで下さい。

※仕上塗りの施工方法及び注意点は別紙テラコート施工マニュアルをご参照下さい。